# コスト構造改革（VA）の推進 BX

## VA活動の全体概要

当社グループは中期経営計画において、BX（強靭な企業体質への改革）に掲げるコスト低減目標の実現に向けた取組みとして、バリューアナリシス（VA）活動を推進しています。

VAとは、各事業部門の経費・修繕・設備投資に対して、当社の調達部門と各事業部門のみならず、取引先様含め様々な関係者と計画段階から連携することで、サプライチェーン上のあらゆる視点から徹底的に効率化を検討する取組みです。

例えば、調達する資機材や請負工事等において、本来の機能や目的に着目して原価構造の分析などを行い、さまざまな視点でアイデアを出しながら検討を進めることで、仕様、工程・プロセス、調達方法の見直しなどを実施し無駄を省いてコストの最小化を実現しています。

**コスト低減の視点**

| 戦略視点 | 切り口の例 | 具体事例 |
|---|---|---|
| 仕様を変更する | 数量を変える | 必要最小限の工数に精査 |
| | 品質レベルを変える | 過剰な要求仕様の軽減 |
| | 方式を変える | 事業所間や他社との仕様統一 |
| | 特殊品を汎用品に変える | 汎用化により競争発注拡大 |
| | ライフサイクルコストを最適化する など | ライフサイクル全体でのコスト評価・最小化 |
| 工程・プロセスを変更する | 工法を変える | 簡易工法、工期短縮 |
| | 対象範囲を変える | 材工分離、設計施工一体化 |
| | 実施時期を変える | 需要集中・高価格時期の回避 |
| | 要求レベルを変える など | 過剰要求品質、取引先認定級の緩和 |
| 調達の方法を変更する | 買い方を変える | まとめ発注、共同調達、複数年契約など |
| | サプライヤーの競争環境を変える | 競争化、サードパーティ、国際調達など |
| | サプライヤーとコスト低減を連携する | 協働による原価低減活動 |
| | サプライチェーンを最適化する | 請求元-G会社内販-外部調達の最適化 |
| | 価格交渉力を強化する など | 包括的な合意形成など |

## 具体的な取組内容

### 発電所関連システムにおけるコスト低減事例

当社は、サプライチェーン上のあらゆる視点で効率化を検討するにあたり、会社間の垣根を越えた知見の共有、協働による効率化に取り組んでいます。

発電所構内のある防災関連システムにおいては、日常的に保守を実施しているグループ会社と協働で、現行のシステム要件設計の標準化による競争環境構築と新たなサプライヤーとの取引の探索・開拓活動を実施致しました。

結果として、標準化したシステム仕様を条件に、当社の要求水準を満足することを確認した新たなサプライヤーを含めた複数社による競争発注を実施することで、大幅なコスト削減を実現しています。

今後も、グループ会社を含めた他社様との協働による効率化に引き続き取り組んでいきます。

### 関西電力送配電におけるコストエンジニアリング※1によるコスト低減事例

関西電力送配電では、調達品のコストエンジニアリングを実施し、取引先様との間でWin-Winとなる原価低減活動に取り組んでいます。実際に使用している機材の分解や、三現主義※2に基づく各種調査等による原価分析を通して原価低減のポイントを見極め、部品構造・仕様・材料の変更等を取引先に提案しています。また、これにより、取引先からの逆提案も引き出し、契約形態の変更や発注物量の平準化等のコスト低減を実現しています。

今後も、関西電力送配電と調達本部で連携し、社内・社外の知見を活用して、業界のトップランナーレベルを目指し、コストエンジニアリングに取り組んでいきます。

コストエンジニアリングのワークショップの様子

※1 コストエンジニアリング：市場・取引先、製品の製造・工程、各部門の技術等に関する知識を基に、原価分析を行う等、原価低減の余地を見出すスキル
※2 三現主義：実際に“現場”で“現物”を観察し、“現実”を認識した上で問題解決を図るという考え方